

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價(海外送付には此他後に)
一號 貳圓五厘〇一箇月 前金五拾錢〇三箇月 前金壹圓四拾五錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊(此他大祭祝日年終年始末等一切休刊せず)

時事新報選送料

日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山、津浦、南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈院を経て郵送する歐洲各國
一箇月 金六拾錢
北米合衆國、英領加奈院、布哇諸島
一箇月 金三拾錢
香港を経て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、澳洲
一箇月 金六拾五錢
露領滿洲新地、清國諸港
一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四號時 一日限 六日以上 七日以上
一付 十三號 十一號 十號五厘

本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるも寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送せらるべきを請ふ

時事新報

株式の賣買

實業諸会社の株式を株式市場の賣買に掛くると然らざるは社會の爲めに謀りて利害甚だ分明なるものあり會社の信用厚くして事業の前途望めるものは株式の價自から騰貴して買はんとするものも買らんとするものも多し之に反するものは其價下落して願ひするものなし其買買は自然に行はれて必ずしも株式市場の取引を待たず會社は獨り自から其事業を圖りて情らざれば則ち可なるが如くならざらん一般の見所は然らず世間には希有なる資本家にして見込ある會社の株式を買ひ入れ新に株主たらんとするもの多しなれども茲に困却なるは會社の實相世に明ならざるの一事なり某會社の前回は云々某會社の内情は云々の沙汰は自から世間の評判に上りて一般に聞ゆるとされども株主たらんとするものが實際に資本を投じて其株を買ふには單に世間の評判のみを當にして決行す可きに非ず左ればとて容易ならざるのみか或は如何なる會社が實際有望なる

やを分別するさへも難きが故に其邊に不案内なる資本家は先づ以て斷念せざるを得ず然るに會社が其株式を市場の賣買に付するときは株の價は其事業の形況に隨て上下するは勿論 社内の仕組、監督者の適不適、前途の見込如何に至るまで一々市場の相場に影響して其銳敏なるものと影の形に隨ふに異ならず左れば若し其株式を公の賣買に掛けるに於ては實際有望の會社にても世間の人は實相如何を知るも能はざるが故に獨り自から安んずるの傾なきを免れざれども一たび市場に現はるときは其實相忽ち社會の鏡面に映出せられて一點の眞を誤らざる會社の人々も自から之に勵まされてます(事業の發達に注意するは勿論、世間にて安心して其株を買ふものも多ければ事業の確實を發達せしむるは益を得る譯にして會社の基礎はますます鞏固を致す可し例へば紡績會社の如き近來の好景氣は自から原因あれども其景氣を外に發表し一般に信用を置くに至らしめたるは即ち株式市場の爲めにして世間の人は先づ其株の騰貴を目を注ぎて買らんとするものもあれば買はんとするものもあり其買買の結果は確實なる株主の多數を増してます(會社の基礎を鞏固ならしめます)一般の信用を博するに至りしのみ左れば株式市場の賣買に付するも付せざるは會社の利害に大關係あるもなれば苟も前途有望、ます(事業の發達を期する會社にして其株式の今日尙ほ未だ市場に現はれざるものは速に公の賣買に付す可きは勿論、株式取引所の人々も自家の商賣繁昌の爲め此種の會社に向て其決行を促すも肝要なる可し

尙ほ序ながら一言せん近年來我國の礦山事業は次第に發達して會社の仕組を以て其業に従事するもの少なからざれども其會社の株式にして市場の賣買に付したるものを見ず怠慢の至りと云ふ可し日本の礦業發達したりと云ふと雖も世間に其事實を詳にするものは果して幾何ありや一般の人々は現在設立しつゝある會社の數をも知らざる程の次第にして況して之に資本を投するが如きものはある可らず斯る有様にして斯業の繁昌を望むは難しと云ふ可し或る地方の礦山は僅に有望の事業にして既に着手中なれども何分にも資本の足らざるが爲めに計畫の目的を達する能はず遺憾ながら廢業の外なしとの談は我輩の毎度耳にする所なれども其資本に乏しと云ふは世に資本家なきに非ず畢竟その會社の景況に明ならざるが爲めに之に金を投するの人のなきのみ今日の礦業は技師の熟練、學理の應用純然たる文明的の事業にして所謂山師の仕事に非ず苟も實際の事實を明了ならしめて世間に知らしむるときは資本の如き決して乏しきを患ふるもなし左れば其會社たるものが他の會社の株式と同様、自家の株式を市場の賣買に付するもとせば一般に其事情も明白にして大に之を買はんとするものもある可し其買買盛に行はれて好景氣を呈するに至れば或は從來資本の缺乏に苦しみたる會社も事業の確實を世間に認められ案外の邊より新株主を得て最初の目的を實にするもとあるやも知る可らず兎に角に鐵業の有様として今日までの如くならしむるは發達を謀るの道に非ざれば其會社たるものは株式市場の賣買に付して一般の世人をして事の真相を知り鐵山事業に信用を置くに至らしめんと敢て營業者に望む所なり

雜報

東京商品取引所理事長、東京商品取引所兩派の合同成りたるに就ては出願の手續を終り次第其筋より認可せらるべくこれに續いて役員選舉を爲さるべからざるもなるが目下理事長の候補者に付區々の評議あり或る一派の人は銀林綱男氏に望み内々同氏の意を探ぐりたるが同氏は先約の業務ありとて之に應ずるの色見えず或は仲裁の勞に酬ゆる爲め真中忠直氏を推せんとも云ふものあれば前嶋密氏か否らざれば中野武蔵氏かに依頼せんと唱ふるもあり結局何人の手に歸するもとやら判然せずと云ふ

山陽鐵道の收入旬報 本月一日より十日に至る山陽鐵道會社の收入旬報は左の如し
一、客車收入 一、六六六、六六六、六六六
一、貨車收入 一、五五五、五五五、五五五
合計 三、二二二、二二二、二二二
平均一日 一、四四四、四四四、四四四
兩毛鐵道の收入旬報 五月一日より十日に至る兩毛鐵道會社の收入旬報は左の如し
一、客車收入 一、三三三、三三三、三三三
一、貨車收入 一、二二二、二二二、二二二
合計 二、五五五、五五五、五五五
平均一日 二、五五五、五五五、五五五
吉備鐵道株式會社 岡山縣御野郡石井村大字土田石と同縣賀陽郡尾村大字溝井との間に輕便鐵道を敷設するの願書を發起者總代西崎建太郎、橋本貞固の兩氏より去る十一日同縣廳へ差出せり會社の名は吉備鐵道株式會社と稱し其位置は右の上田石に設け資本金は十五萬圓株數三千株にして一株五十圓なりと
紡績絲の上海輸出 昨今東京及大阪表に於ける大絲相場は大抵八十五圓位なるが同價格にて充分上海に賣行くの望あり此程既に同地より注文達したるを以て東京紡績會社にては兩三日前十四手十六手取交せ總計二百捆を輸出したるよし尙ほ鐘淵紡績會社にては同様注文を受け近々輸出する筈なりと云ふ
關西菓子商同盟會 是去る二十二日大阪北久太郎町四丁目關西菓子商同盟會事務所に於て二百二十名各支部長會を開きたるに出席員三十餘名にて左の三項を決議し午後七時より南地明月樓に於て懇親會を開き散會したるよし
油會所立會の模様 昨十五日東京油會所に於ける立會の模様を聞くに菜種油は當日大阪休會の爲め何等の報道なかりしも同事持合ひならんとの想像を抱くもの多し爲めに本會の氣配は更に變りなく總て同事なり色物類並に石油も亦變化なく同事保合の商況なり入荷は大坂より水油二百三十圓、白絞五樽伊勢より水油百五十樽等にして當日の出來直段は左の如し
出帆の兩船にて米國 十一日出帆の加奈太、横濱より輸出 加奈太へ 千四百三十四個、紐育へ 四百四十個、合計 七千六百七十四個
大坂保險會社の 右兩船とも他の貨物非ず火災保險契約中 五十圓は去る十日を以てたりと云ふ
藻屑 西洋芝居の發原は古代西洋芝居の根原は古代馬に移り其後、耶穌教傳入の擧行との爲めに古代の演劇(The Aetiole)の間は他の美術と共に今は則ち己れの説教のめんと趣意を以て稱する極めて殺風景より一擧茶番狂言となり一度火曜を決すれ之を止む可きや沛然と終にモリスピアアて是れ即ち近代の演劇樂等未來のものに屈託に耽るは神に對して恐とする一種の僧家の爲しさを示すものにして之を爲めには甚だ悦ぶ可しとして異性の物なり但しトートの三間に重居の進化も人間の進化

積荷 一昨十一日昨十二日積荷